

香港 SOGO 啟德（カイトック）店での「石川県・京都府物産展」の開催

11月15日から26日までの12日間、香港 SOGO 啟德（カイトック）店（以降「カイトック店」）において、石川県と京都府の伝統的工芸品や食品をPR・販売する「石川県・京都府物産展」を開催しました。本フェアは、昨年12月に石川県と京都府が締結した「文化の振興等に係る連携・協力に関する協定」に基づき、カイトック店のオープンに合わせて実施したものです。この啟德（カイトック）エリアは、1998年に香港国際空港が現在の場所に移転するまで空港が所在していたエリアで、九龍（クーロン）半島の繁華街である尖沙咀（チムサーチョイ）から5kmほどと近く、中心地からのアクセスの良さが特徴です。2013年以降、再開発が進められ、大型ショッピングモール、クルーズターミナル、スポーツパーク、高層マンションなどの建設をしており、経済や観光の一大拠点となることが期待されています。

今回のフェアでは、石川県から工芸品13社153商品（輪島塗等）と食品15社97商品（日本酒等）が、京都府から工芸品10社189商品（京焼等）と食品12社75商品（抹茶等）が展示販売されました。いずれも地域資源を生かした特徴ある商品一堂に会する売り場は、これまで取り組んできたフェアと一線を画す規模であり、初日から多くのお客様で賑わいました。試飲試食をしながら自分好みの商品を探すお客様や、商品が作られた地域の観光情報の質問をするお客様の姿が多く見られ、京都府と連携した物産展の集客効果は非常に大きいものでした。

特に好評だったのが、石川県事業者による和菓子（上生菓子）の実演販売・ワークショップや、京都府事業者によるお香の実演です。上生菓子のワークショップでは、参加者が色とりどりの餡を指や道具を使って形作り、組み合わせてアサガオの上生菓子を完成させました。「徐々に出来上がっていく過程が楽しかった」「石川県に行って違う体験もしてみたい」といった声が寄せられました。

他地域との連携によるプロモーションは、商品の品揃えの充実やイベントとしての話題作りの面で非常に有効であると実感しました。今後とも県産品の販路拡大およびインバウンド誘客を促進するための取り組みを継続していきたいと思います。

■上海の和食レストランでの石川フェア開催について

10月22日、上海浦東エリアにある和食レストラン「鮎東 OMAKASE」において、石川県の地酒と郷土料理のペアリングコースを提供するイベント「石川 night」を開催しました。

このイベントは、9月3日、4日に上海市内で開催されたBtoB商談会（国内外で石川の物産展を開催する「協同組合加賀能登のれん会」が主催。県内の食品・伝統的工芸品等の事業者11社が訪中し、現地貿易業者や経営者等との商談）をきっかけに、商談会に参加した飲食店オーナーから提案を受けて実現したものです。

イベントでは、石川県の地酒8銘柄が用意され、郷土料理として、ぶり大根や金沢風おでん、蓮根の蓮蒸しなどが提供されました。当日は店の常連客など15名が参加し、ペアリングコースを堪能しました。また、当事務所では、石川県内で地酒の飲み比べができる場所や、文化体験ができる施設の紹介を行いました。参加者の中には、数年前まで仕事の関係で石川へよく行っていたという方もいらっしやり、「久しぶりに石川の酒と料理を味わうことがで

きた。懐かしい風景も目に浮かんできて、また行ってみたいと思う」と話していました。他にも、「私はまだ行ったことはないが、知人が石川に住んでいて話をよく聞く。酒と海鮮が美味しいと聞くので行ってみたい」という方もいらっしゃり、参加者それぞれが石川県に対する思いやイメージを語り合い、県人会さながらの盛り上がりを見せました。主催したレストランのオーナーは、「石川は、伝統文化やグルメといった観光資源が豊富で魅力的な地域。今後も商品の拡充やフェア開催等を検討していきたい」と話していました。

今後も引き続き、飲食店や商業施設などと連携した取り組みを企画し、県産品の認知度向上と販路開拓につなげていきたいと思います。



↑ 石川県事業者による試食販売



石川県事業者による和菓子のワークショップ↑



← 上海和食レストランでの「石川 night」の様子